

be Happy ~未来につながるまち 広陵~

奈良県広陵町（2019年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	第5次広陵町総合計画を令和3年度に策定し、第2期SDGs未来都市計画における課題と目標を統一化させることで、適切な工程管理が実施できるよう設計しており、令和4年度から両計画を始動させている。 広陵町の諸課題に対して、2030年のあるべき姿に向けて以下の目標を設定。 【目標一覧】 1「自然と人が調和したまち」、2「生活基盤が充実したまち」、3「次世代を担う子どもが輝けるまち」、4「誰もが安全・安心して暮らせる充実したまち」、5「地域のきずなを深め、表現力豊かな力強いまち」、6「地域が活性化するまち」	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	経済：広陵町都市計画マスタープランに基づき、駅周辺の拠点整備及び企業誘致を実施。また、町内企業、起業家、農家等に対してKoCo-Biz（広陵高田ビジネスサポートセンター）による課題解決相談を実施し、売上向上や経営力強化を行っていく。 社会：コロナ後の社会に対応するため、デジタルを活用した施策展開を行い、地域の協力体制構築や感染症及び被災による緊急対応等の制度のはざま対策を実施していく。 環境：新電力の導入に際し、ゼロエミッション調達により、CO ₂ を排出しない発電電力を調達することにより地球環境への貢献をめざす。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組	6. 取組成果		
【広陵町産業総合振興機構（なりわい）の事業拡大】 広陵町の産業・農業・観光の各分野が持つ特色や強みを生かした地域活性化に向けた中間支援を行い、自らも収益事業を行う。 【Society5.0に基づくスマートシティ構想】 スマートシティ構想の考え方を核として、オープンデータ化や広陵町版Maas構築、PPPの活用等を実践していく。 【カーボンニュートラルの実現】 住宅用太陽光発電や蓄電池等、運輸部門の温室効果ガス排出量削減に対する省エネ導入を実施し、自立・分散型のエネルギー社会実現に向け実践していく。	【広陵町産業総合振興機構（なりわい）の事業拡大】 ・ふるさと納税及び地域振興券等の事業を町から受託し、取引事業者数を当初の目標値から大幅に増加させ、事業者の売上向上の一翼を担っている。 【Society5.0に基づくスマートシティ構想】 ・広陵町版Maasを構築し、従来の定時定路線型運行から、AIを用いたデマンド型バス運行へシフトさせる取組を実施。システム会社にサウンディング調査を実施する等、令和5年7月から運行を開始している。 ・公共施設の整備・修繕について、効率的かつ効果的に進めることを目的に広陵町PPP/PFI手法導入優先的検討規定を策定。本規定に基づき、役場庁舎、総合保健福祉会館、学校施設の空調及び照明をESCO事業において実施し、省エネルギー化を実現した。		
5. 取組推進の工夫	7. 今後の展開策		
自治体のSDGsの取組状況を数値化・見える化するシステム「T SUMUGI」を庁内に導入し、全課室を対象に運用開始。 SDGsを意識した事業検討及び実施を促進する工夫を行った。	SDGsの取組状況をシステムにより把握した上で、SDGsの取組を進めていくため、各課に必要な施策について、類似事例を踏まえて分析するための職員研修会の実施を予定。総合計画の取組深化についても合わせて検討する機会とする。		
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	現段階で特に他地域への展開はないが、「T SUMUGI」については、全国の未来都市でも導入されていることから、情報の発信及び収集が望めるため、他地域への展開も検討している。		